

## 令和3年度第6回地方独立行政法人京都市立病院機構理事会 議事録（要旨）

- 日 時： 令和3年10月26日（火） 午前10時30分から11時40分まで
- 場 所： 市立病院北館7階ホール1
- 出席者： 理事長 黒田 啓史  
理 事 清水 恒広、岡野 創造、森 一樹、半場 江利子、松本 重雄、  
位高 光司、能見 伸八郎、山本 みどり、白須 正  
監 事 長谷川 佐喜男  
事務局 折戸経営企画局次長、長谷川管理担当部長、大島京北病院事務管理者・統括  
事務長、菱田経営企画課長

### 1 開会

### 2 議題・報告事項

#### (1) 月次収支（8月）報告（報告事項）

資料1に基づき、折戸経営企画局次長から説明

- 市立病院における入院診療報酬単価上昇の理由として、重症患者が増えているとのことだが、かかりつけ医との連携などにより、重症患者が増えたということか。また、これはコロナ禍による一時的なものでなく、今後も継続していくものか。  
→ 軽症患者の受診控えに伴い、全体に占める重症患者の割合が高くなっている。また、一般的には入院日数が伸びると単価が下がる傾向にあることから、これを意識して適正な日数で退院いただくよう取り組んでおり、一人一人の患者の単価上昇の影響もある。  
コロナ禍が単価の上昇に影響していると思うが、これまでから単価上昇に向けた取組を進めてきている。上昇傾向は良いことであるが、まだ絶対的な患者数が少ない状況が続いている。
- 他の主要指標が減少する中、救急車搬入件数が増えているのは、受診控えで我慢した結果、いよいよ処置が必要となった結果とも考えられるがいかがか。  
→ 8月は近隣の複数の病院でクラスターが発生した時期であり、近隣病院が救急の受入れを停止する中、市立病院が受け入れた経過がある。この間は断り事例も増えており、一時的な増加の波があったものと推測される。
- 主要指標は全体としてよい傾向にあると思う。大変だと思うが、患者数を一定の水準まで持っていければ、収支均衡に持っていけるのではないか。  
→ そのとおりである。今年度は現在の収支にコロナ補助金が一定見込めるが、来年度以降も補助があるかは分からないため、本来の医業収益を上げる力を付けていくべきと考えている。
- コロナ禍の影響のない前々年の元年度との比較をされているが、患者数など大きなマイナスとなっている。今後は元年度の水準に戻していくという考えか。  
→ 現在、コロナ病床の拡充により一般病床を減床しており、この影響はやむを得ないと考えている。今後、コロナが収束した際には病床を元に戻す必要があるが、どの程度患者に戻ってきてただけかが重要なポイントになると思う。
- 前々年度となる元年度はどのような経営状態であったか。今後、患者数の増加を見越した準備はしているのか。  
→ 元年度は稼働率は高かったが支出も多く、結果として赤字であった。元年度を目指してという語弊があるが、稼働率としては目標とできるため比較対象とした。

通常よりも一般病床が少ない現状で、冬場の入院患者数の増加が見込まれる中、対応するベッドの回転効率を上げることで、高単価を維持できる状況に持っていくことが理想である。患者数の増加に向けて、ベッドコントロールをうまく回していきたい。

- 京北病院の実績は2年前と比較して改善されている。どのように分析しているか。
  - 色々な要素があるが、収入面ではコロナワクチンの接種に取り組んだことが大きい。支出面では細かい支出項目まで見直しに取り組んだ結果、改善につながったものである。
- 市立病院の今年度のコロナ補助金は前年度よりも増加することだが、現在の経常収支の累計から想定される年間の赤字額を補えるほどの金額となるのか。
  - コロナ補助金は、現在「計算中」としているが、前年度より増加する見込みである。前年度は5.8億円の交付実績であるが、他病院では2桁を超える実績のところも多い。
  - 府からの要請によりコロナ病床を16床増床したが、これに伴って他病棟を休止している間の補助金が交付されるため、補助金の総額は昨年度を大きく上回ると想定している。

## (2) 新型コロナウイルス感染症関連の情勢、法人の対応等について（報告事項）

資料2に基づき、折戸経営企画局次長から説明

- コロナ罹患後の後遺症についての報道をよく見かける。患者数も多く、専門に扱う医療機関も出てきているようだが、どのように捉えているか。
  - 市立病院では、個々で相談があれば感染症科を窓口としてしっかりと対応している。患者の不安は理解するが、直ちに専門外来を設置することまでは考えていない。
  - 後遺症に悩む方は罹患者の4分の1とも聞くが、コロナの影響かどうかの鑑別は困難である。まだ治療法が確立されていないという問題もあり、大事な話ではあるが、慎重に考えていく必要がある。
  - 現在、市立病院の退院患者へのフォローアップとして、電話でその後の状態をお伺いしており、実際に診療科につないでいる例もある。
  - 後遺症に関しては、現在、厚労省が診療の手引きをまとめているところであり、来月以降、公表される見込みである。手引きを参考にすればどこでも診療が可能となり、一箇所に負担が掛からず済むかもしれない。
- 京北病院のワクチン接種について、一人2回接種で約2,500人となり、人口規模で言えばすごい割合である。京北病院に初めて来られた方もいるはずであり、今後の利用につながると思う。
  - 本人からの申込みだけでなく、民生委員のネットワーク等の地域の支えにより、点在する集落の方にも来ていただいた。きめ細かなサポートが京北地域の財産であり強みであると感じており、垣根を低くして、何でも言ってもらえる関係を作っていきたい。

## 3 閉会